

横浜市立 **中川小** 学校だより 2月 令和5年1月31日発行

学校教育目標 人・自然・まちとふれあいながら、自分を高める中川の子



## 「ありがとう」と「ごめんなさい」のタイミング

副校長 村田 篤子

ちょっと前のことですが、テレビで、あるアイドルが言っていました。「『ありがとう』と『ごめんなさい』のタイミングが合うと心地よい。」

年が明けてすぐのこと。「ごめんなさい。」を言うために職員室に来てくれた子がいました。「しかられるかもしれないな…」と思いながら来るのはドキドキだったと思いますが、「お母さんにも(先生と)同じことを言われた」と、次の日に。子どもの胸の中にしておくには重いでしょうし、「よい、わるいの判断を(行動する前に)しよう。」と約束できました。心がスッキリです。

また、寒波が来た日の中休みには、「副校長先生、なわとび回して。」と低学年の子に声をかけられて、「ゆうびんやさん“と一緒に遊びました。「なわを回してくれて、ありがと！」の声とともにその場を離れると、今度は「ボールの空気、めっちゃいい感じ。ドリブルしやすいです。入れてくれてありがとうございます。」と、高学年の子にお礼を言われました。寒い日でしたが、2つの「ありがとう」のことは心はポカポカになりました。

「ありがとう」と「ごめんなさい」は心と心をつなぐ橋のようなことばだと思います。その橋をタイミングよく渡れたらよいな、と思います。橋をおっかなびつくり渡る子もいれば、走って渡る子もいるでしょう。でも、そのタイミングを失わず自分の力で渡ること、心が通うのかな、と思います。

子ども達は毎日いろいろな経験をしています。「ありがとう」や「ごめんなさい」が必要な場面も少なくないでしょう。その際、タイミングよく橋を渡れるとよいなと思います。子どもの周りにいる私達(大人)は、自分の意思で橋を渡ろうとする子どもを育てていきたいと思っています。環境を整え、温かく見守りながら。

もくヒョウこたけちゃん



ふりカエルこたけちゃん